資料７

**第６回クールジャパン人材育成検討会**
**最終とりまとめ案についての長谷川委員からのご意見**

〇日本の深い文化や、地域の魅力を発信する際にどう活用するか、どう見える化するかという意味でのプロデュース力が、他国とは異なる付加価値を地域に生み出す鍵であると考える。地域プロデュース人材にはそのようなプロデュース力やキュレーション力を身につけてほしい。

〇地域が様々な内部や外部の主体と協働するには、一つには地域に協働の場（プラットフォーム）を作ることが有効。地域の地場産業センターでも公民館でもかまわないが、地域の産業、教育機関、外国人、UJI ターン候補者、外部アドバイザーなどが相互に協働し、情報交換できる場・機会を自治体や地域の関係者などが協力して作っていくことが望ましい。観光、食、教育等を文化として捉え、分野を超えて話す場になると良い。

〇行政は、地域プロデュース人材を育成しようとする場合に、教育機関の側だけでなく、美術館や博物館なども含め連携対象の側にも支援すべき。また、実践を行うことができる各施設にインターンシップの担当者を置いてほしい。実践を単位として取得できるよう、英国であるような単位認定制度も有効かもしれない。